

Masaya Nagata
New
Docket# 1248-0572P
December 27, 2001

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年12月27日

出 願 番 号
Application Number:

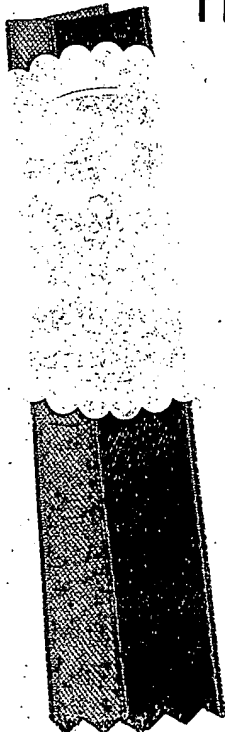
特願2000-399571

出 願 人
Applicant(s):

シャープ株式会社

11002 U.S. PRO
10/026808
12/27/01

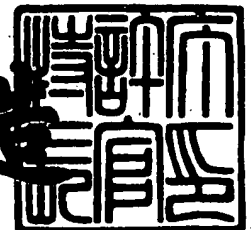
CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT



2001年11月 2日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



PATENT
1248-0572P

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Masaya NAGATA Conf.:
Appl. No.: NEW Group:
Filed: December 27, 2001 Examiner:

For: LABEL INFORMATION PROVIDING METHOD,
LABEL INFORMATION PROVIDING PROGRAM,
RECORDING MEDIUM RECORDING THE LABEL
INFORMATION PROVIDING PROGRAM,
COMMODITY USED FOR THE LABEL
INFORMATION PROVIDING METHOD, AND LABEL
INFORMATION PROVIDING DEVICE

#4

J1002 U.S. PTO
10/026808
12/27/01

L E T T E R

Assistant Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

December 27, 2001

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

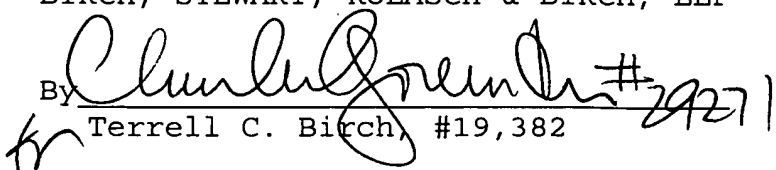
<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2000-399571	December 27, 2000

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 02-2448 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By  #29271
Terrell C. Birch, #19,382

P.O. Box 747
Falls Church, VA 22040-0747
(703) 205-8000

TCB/crt
1248-0572P
Attachment

【書類名】 特許願

【整理番号】 00J04195

【提出日】 平成12年12月27日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 H04L 12/16
H04N 1/00
B65C 3/08
B65C 9/46

【発明の名称】 ラベル情報提供方法、ラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体、ラベル情報提供方法に用いられる商品およびラベル情報提供装置

【請求項の数】 16

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区长池町22番22号 シャープ株式会社内

【氏名】 永田 昌也

【特許出願人】

【識別番号】 000005049

【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100080034

【弁理士】

【氏名又は名称】 原 謙三

【電話番号】 06-6351-4384

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003229

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

特 2000-399571

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9003082

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ラベル情報提供方法、ラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体、ラベル情報提供方法に用いられる商品およびラベル情報提供装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶手段に記憶するステップと、

利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて利用者端末からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出して、上記利用者端末に送出するステップとを有していることを特徴とするラベル情報提供方法。

【請求項 2】

少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶手段に記憶するステップと、

上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶手段に記憶するステップと、

利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて利用者端末からのアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出するステップとを有していることを特徴とするラベル情報提供方法。

【請求項 3】

上記アクセス先情報を、上記商品に形成するステップをさらに有していることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載のラベル情報提供方法。

【請求項 4】

上記アクセス先情報は、上記商品の商品情報を記載したラベルと同一のラベルに形成されていることを特徴とする請求項 3 に記載のラベル情報提供方法。

少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶すると共に、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶する記憶手段と、

利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する制御手段とを備えていることを特徴とするラベル情報提供装置。

【請求項 1 3】

上記アクセス先情報は、上記商品に形成されていることを特徴とする請求項 1 1 または 1 2 に記載のラベル情報提供装置。

【請求項 1 4】

上記記憶手段は、さらに、上記商品を利用者に提供する商品提供者情報を記憶しており、

上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された商品提供者情報が、上記記憶手段に記憶されている情報の中に存在するか否かを判断し、存在すると判断した場合にのみ、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出することを特徴とする請求項 1 3 に記載のラベル情報提供装置。

【請求項 1 5】

上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された利用者情報を、上記記憶手段に記憶させることを特徴とする請求項 1 2 ないし 1 4 のいずれかに記載のラベル情報提供装置。

【請求項 1 6】

上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された利用者情報と商品提供者情報とを関連付けて、上記記憶手段に記憶させることを特徴とする請求項 1 2 ないし 1 5 のいずれかに記載のラベル情報提供装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えばワイン、ビール、各種酒等を収容する容器（瓶（ボトル）、ペットボトル、紙パックなど）に貼付されたラベルを忠実に再現して消費者または需要者に提供するラベル情報提供方法、ラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体、ラベル情報提供方法に用いられる商品およびラベル情報提供装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

瓶詰めされたワイン等には、各種情報が記されたラベルが貼付されている。上記の各種情報とは、例えば、商品名、産地、生産者、アルコール度数、容量、葡萄の収穫年、品質のレベルなどである。ラベルに記されたこれらの情報を知ること、ワインの内容を推測、確認できるようになっている。

【0003】

ところで、例えばワイン愛飲者の中には、ボトルに貼付されたラベルを剥がし、該ラベルを飲食の記念等として保存することが多くなされている。このため、片面に接着剤層が形成された専用の透明シートが市販されており、この透明シートを接着剤層が対向するようにしてラベルに張り合わせ、ラベルを透明シート側に転写して写し取ることで、ラベルを取得することが可能となっている。

【0004】

一方、個人のスナップ写真などを形成したオリジナルのラベルを作成・提供するサービスもある。このサービスでは、まず、サービス提供者がラベルの雛形（例えば所定の形状で形成された外枠）をサービス需給者に提供する。サービス受給者は、用意された雛形の中から好みのラベルを選択し、該ラベルに形成する文字、画像等の情報をサービス提供者に提出する。そして、サービス提供者は、サービス受給者によって選択された雛形に、提出された文字、画像等のオリジナル情報を合成し、画像形成装置にてラベルを出力後、サービス受給者に送付する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところが、上記透明シートを用いてラベルを剥がす方法では、例えば、ラベル

への透明シートの貼り合わせの際、ラベルと透明シートとの間に一旦空気等が入ったり、あるいは、透明シートにしわが生じてしまったりして、透明シートの貼り方が適切でないと、該空気およびしわを除去することができないため、ラベルをきれいに剥がすことができない。また、透明シートを適切にラベルに貼ることができたとしても、透明シートの剥がし方が適切でないと、ラベルをきれいに剥がすことができない。したがって、透明シートの貼り方や剥がし方が不適切な場合には、剥がされたラベルの品位が低下する。

【0006】

また、透明シートとラベルの接着具合が不十分あるいは不均一であると、ラベルの一部は透明シートに転写されるが、他の部分は瓶に残ったままとなり、ラベル全体を完璧に剥がすことができなくなる。

【0007】

さらに、以上の工程を問題なくクリアできても、ラベルの引き剥がし方に慎重さが要求され、例えば、ラベルが破れそうな場合は、逆側から剥がしたり、もう一度堅いもので透明シートの上からこすりつける等の工夫が必要とされる。また、ラベルの引き剥がし作業には、ある程度のコツも要求され、瓶あるいはラベルに凹凸がある場合には、ラベルの引き剥がし作業は、より一層困難になる。

【0008】

また、ラベルはそもそも、瓶に対して接着剤により接着されているため、透明シートにより該接着面とは反対側の面を接着した状態では、ラベルは、両者（瓶と透明シート）に接着していることになる。したがって、ラベルの下層を接着剤を介して瓶に接着させたまま、当方法によりラベルの上層（表面層）のみを剥がすことができたとしても、剥がされたラベル（上層）の厚みは薄いので、剥がされたラベルを固定、保存するための台紙等が必要となる。

【0009】

さらに、引き剥がされたラベル上層の裏面は、2層（上層と下層）の接着面を引き剥がすことにより生じた面であるので、美観上汚く、そのままでは例えばポストカードにも利用することができず、引き剥がしたラベルを利用する用途が制限されてしまう。

【 0 0 1 0 】

以上のように、透明シートによりラベルを剥がす方法の最大の欠点は、1つの瓶に対して1つのラベルしかないことであり、これが直接の原因となって、ラベル引き剥がしの失敗等が許されないのである。

【 0 0 1 1 】

一方、オリジナルのラベルを作成・提供するサービスでは、ラベルのみを入手することが可能である。また、ラベルが電子情報としてサービス提供者に保存されるので、その複製も可能である。

【 0 0 1 2 】

しかし、当サービスは、市販されているワイン等に貼付されているラベルを対象として受けられるわけではなく、当サービスによって得られたラベルは、あくまでもサービス受給者にとって個人のオリジナルな情報が形成されたものに過ぎない。そのため、第三者にとっては、該ラベルはワインに関する価値ある情報を有したものとはならない。

【 0 0 1 3 】

本来、ラベルは内容物（この場合、ワイン）の履歴書としての役割を果たすものであるが、該サービスによって作成されたラベルは、上述のようにサービス受給者にとってオリジナルな情報が形成されたものに過ぎないので、該役割を喪失している。したがって、ワイン自体に関する情報を該ラベルから得たり、該情報を基に、他の第三者と共通の話題として意見を交わすようなことができない。

【 0 0 1 4 】

本発明は、上記の問題点を解決するためになされたもので、その目的は、通常市販されるワイン等のラベルを対象とし、ワインを購入した消費者が、該ワインのラベルを価値ある情報を有するものとして簡単な方法により取得することができるラベル情報提供方法、ラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体、ラベル情報提供方法に用いられる商品およびラベル情報提供装置を提供することにある。

【 0 0 1 5 】

【課題を解決するための手段】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶手段に記憶するステップと、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて利用者端末からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出して、上記利用者端末に送出するステップとを有していることを特徴としている。

【 0 0 1 6 】

また、本発明に係るラベル情報提供装置は、上記の課題を解決するために、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶する記憶手段と、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出して、上記利用者端末に送出する制御手段とを備えていることを特徴としている。

【 0 0 1 7 】

上記の構成によれば、商品に貼付されるラベルには、商品の商品名、産地、生産者等の商品情報や、その商品のイメージを高めるためのデザインなどが形成されている。このような商品情報やデザインも含めたラベル情報が、例えば電子データとして商品の種類ごとに記憶手段に記憶されている。

【 0 0 1 8 】

ここで、ラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報については、例えばそのような情報を記載したラベルを商品に貼付しておけば、利用者は上記商品の購入時に上記アクセス先情報を知ることができる。また、アクセス先情報を記載したラベルが商品に貼付されていなくても、例えば、上記商品の購入時に、アクセス先情報を記載したパンフレットなどを商品提供者から受け取ることにより、利用者は、上記アクセス先情報を知ることにもできる。さらには、上記商品を扱う雑誌に上記アクセス先情報を記載しておけば、商品の購入は保障されないが、利用者はそのような雑誌からアクセス先情報を入手することにもできる。

【0019】

このようにして入手したアクセス先情報に基づいて、利用者端末から上記ラベル情報のダウンロードを要求するアクセスがあった場合には、制御手段は、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出し、上記利用者端末に送出する。これにより、利用者端末側では、受信したラベル情報に基づいて、例えばプリンタ等により元のラベルを容易に復元することが可能となる。

【0020】

したがって、サービスの利用者であれば誰でも簡単にラベルを取得することができる。また、上記構成では、受信したラベル情報に基づいてラベルを復元できるので、透明シールを用いてラベルそのものを引き剥がす従来のように、ラベルが破けたり、一部のみしか得られなかったりして、取得したラベルの品位を損なうこともない。

【0021】

また、受信したラベル情報に基づいてプリンタ等によりラベルを復元できるので、プリントする媒体（用紙）として適切な厚みのものを選択すれば、復元したラベルを安定して保存するための台紙を不要とすることができ、しかも、この場合、復元したラベル裏面の美観が損なわれることもない。

【0022】

また、ラベル情報は、商品の内容そのものを示す情報であり、それゆえ、上記ラベル情報に基づいて復元されたラベルでも、商品の内容を示す情報として価値ある情報を十分に有している。その結果、復元されたラベルを用いて、第三者と商品に関する意見交換も十分に行うことができる。

【0023】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶手段に記憶するステップと、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶手段に記憶するステップと、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて利用者端末からのアクセスがあり、利用

者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出するステップとを有していることを特徴としている。

【 0 0 2 4 】

また、本発明に係るラベル情報提供装置は、上記の課題を解決するために、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶すると共に、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶する記憶手段と、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する制御手段とを備えていることを特徴としている。

【 0 0 2 5 】

上記の構成によれば、商品に貼付されるラベルには、商品の商品名、産地、生産者等の商品情報や、その商品のイメージを高めるためのデザインなどが形成されている。このような商品情報やデザインも含めたラベル情報が、例えば電子データとして商品の種類ごとに記憶手段に記憶されている。また、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報は、上記ラベル情報と関連付けて記憶手段に記憶されている。

【 0 0 2 6 】

ここで、ラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報については、例えばそのような情報を記載したラベルを商品に貼付しておけば、利用者は上記商品の購入時に上記アクセス先情報を知ることができる。また、アクセス先情報を記載したラベルが商品に貼付されていなくても、例えば、上記商品の購入時に、アクセス先情報を記載したパンフレットなどを商品提供者から受け取ることにより、利用者は、上記アクセス先情報を知ることができる。さらには、上記

商品を扱う雑誌に上記アクセス先情報を記載しておけば、商品の購入は保障されないが、利用者はそのような雑誌からアクセス先情報を入手することもできる。

【0027】

このようにして入手したアクセス先情報に基づいて、利用者端末から上記ラベル情報のダウンロードを要求するアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、制御手段は、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する。その結果、利用者端末側では、受信したラベル情報に基づいて、例えばプリンタ等により元のラベルを容易に復元することが可能となる。

【0028】

したがって、サービスの利用者であれば誰でも簡単にラベルを取得することができる。また、上記構成では、受信したラベル情報に基づいてラベルを復元できるので、透明シールを用いてラベルそのものを引き剥がす従来のように、ラベルが破けたり、一部のみしか得られなかったりして、取得したラベルの品位を損なうこともない。

【0029】

また、受信したラベル情報に基づいてプリンタ等によりラベルを復元できるので、プリントする媒体（用紙）として適切な厚みのものを選択すれば、復元したラベルを安定して保存するための台紙を不要とすることができ、しかも、この場合、復元したラベル裏面の美観が損なわれることもない。

【0030】

また、ラベル情報は、商品の内容そのものを示す情報であり、それゆえ、上記ラベル情報に基づいて復元されたラベルでも、商品の内容を示す情報として価値ある情報を十分に有している。その結果、復元されたラベルを用いて、第三者と商品に関する意見交換も十分に行うことができる。

【0031】

さらに、上記構成では、制御手段は、入力された商品情報に基づいてラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出するの

で、記憶手段では、ラベル情報を例えば個々の商品ごとにファイルとして管理する必要がなくなる。つまり、記憶手段がラベル情報を商品ごとに管理しなくても、入力された商品情報に基づく制御手段による検索により、利用者が要求する所望のラベル情報を検出することができる。したがって、例えば記憶手段が記憶するラベル情報が膨大な量となり、商品ごとの管理が困難になるような場合でも、利用者に所望のラベル情報を提供することができる。

【 0 0 3 2 】

本発明に係るラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体は、上記の課題を解決するために、上記したラベル情報提供方法による処理をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録してなることを特徴としている。

【 0 0 3 3 】

上記の構成によれば、上記プログラムをコンピュータ（例えばラベル情報提供装置）が実行することによって、上述したラベル情報提供方法による処理を実現することができる。

【 0 0 3 4 】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、上記アクセス先情報を、上記商品に形成するステップをさらに有していることを特徴としている。

【 0 0 3 5 】

また、本発明に係るラベル情報提供装置は、上記の課題を解決するために、上記アクセス先情報は、上記商品に形成されていることを特徴としている。

【 0 0 3 6 】

上記の構成によれば、上記商品の購入時に、利用者は、ラベル情報のダウンロードを要求できるアクセス先情報を知ることができる。このことは、言い換えれば、商品を購入した者だけしか、上記アクセス先情報を知ることができないことを意味する。したがって、商品の購入に付随するラベル情報のダウンロードサービスを利用者に提供することができる。

【 0 0 3 7 】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、上記アク

セス先情報は、上記商品の商品情報を記載したラベルと同一のラベルに形成されていることを特徴としている。

【 0 0 3 8 】

上記の構成によれば、アクセス先情報と商品情報とが同一ラベルに記載されているので、このラベルを用いれば、これらの情報を一度に商品に付することができる。

【 0 0 3 9 】

なお、アクセス先情報のラベルへの形成は、ラベル情報のラベルへの形成と同時であってもよいし、例えばラベル情報を先にラベルに形成し、その後、アクセス先情報を上記ラベルに形成してもよい。上記後者のほうが、アクセス先情報の変更にも柔軟に対応できるという利点がある。

【 0 0 4 0 】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、上記アクセス先情報は、上記商品の商品情報を記載したラベルとは別のラベルに形成されていることを特徴としている。

【 0 0 4 1 】

上記の構成によれば、アクセス先情報と商品情報とが別々のラベルに記載されており、外見上、これらのラベルが明確に区別されるため、一方のラベルに付されたアクセス先情報が、他方のラベルに付された商品情報の一部として見なされるようなことがない。

【 0 0 4 2 】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、上記アクセス先情報は、URLであることを特徴としている。

【 0 0 4 3 】

上記の構成によれば、利用者は、利用者端末に上記URLを入力するだけで、ラベル情報のダウンロードのリクエストを直ちに行うことが可能となる。

【 0 0 4 4 】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、上記アクセス先情報は、上記URLをバーコード化した情報であることを特徴としている。

【 0 0 4 5 】

上記の構成によれば、バーコード化したURL情報を例えば専用の読み取り機で読み取ることで、URLを利用者端末に入力することが可能となるので、キーボード等によりURL情報を利用者端末に入力する場合に比べて、入力の際の手間や労力を削減することができる。

【 0 0 4 6 】

本発明に係るラベル情報提供方法は、上記の課題を解決するために、上記ラベル情報は、電子データであることを特徴としている。

【 0 0 4 7 】

上記の構成によれば、ラベル情報が電子データであるので、上記ラベル情報を用いてのラベルの復元、複製等が容易であり、また、上記ラベル情報を媒体に保存することもできる。したがって、たとえラベルの復元に失敗したとしても、上記ラベル情報を用いてのやり直しを行うことが可能となる。

【 0 0 4 8 】

本発明に係るラベル情報提供方法に用いられる商品は、上記の課題を解決するために、上述したラベル情報提供方法に用いられる商品であって、上記アクセス先情報がパッケージに形成されている商品であることを特徴としている。

【 0 0 4 9 】

上記の構成によれば、商品の購入者にのみアクセス先情報を提供して、上記購入者に対してのみ、商品購入の付加サービスとして本発明のラベル情報提供方法によるラベル提供サービスを実行することができ、また、商品の販売促進を図ることもできる。

【 0 0 5 0 】

本発明に係るラベル情報提供装置は、上記の課題を解決するために、上記記憶手段は、さらに、上記商品を利用者に提供する商品提供者情報を記憶しており、上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された商品提供者情報が、上記記憶手段に記憶されている情報の中に存在するか否かを判断し、存在すると判断した場合にのみ、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出することを特

徴としている。

【 0 0 5 1 】

上記の構成によれば、利用者端末にて、利用者が商品提供者情報を入力した場合に、制御手段は、上記商品提供者情報が記憶手段に記憶されているものと同じ場合にのみ、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する。これにより、ラベル情報の提供を、所定の商品提供者から実際に商品の提供を受けた（商品を購入した）利用者限定して行うことができ、商品を購入した利用者に対するサービスを確立することができる。また、ラベル情報を取得するためには、利用者は商品の商品提供者から購入することが必要となるので、商品提供者側からすれば、商品の販売促進にもつながり、本サービスを利用する利用者層を広げていくことが可能となる。

【 0 0 5 2 】

本発明に係るラベル情報提供装置は、上記の課題を解決するために、上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された利用者情報を、上記記憶手段に記憶させることを特徴としている。

【 0 0 5 3 】

上記の構成によれば、記憶手段に記憶された利用者情報をもとにして、例えば、新商品に関する情報や、その他、利用者にとって有益となる情報を利用者に提供することが可能となる。

【 0 0 5 4 】

本発明に係るラベル情報提供装置は、上記の課題を解決するために、上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された利用者情報と商品提供者情報とを関連付けて、上記記憶手段に記憶させることを特徴としている。

【 0 0 5 5 】

上記の構成によれば、所定の商品提供者に対する利用者の利用状況、つまり、商品提供者ごとの商品の販売動向を把握することができ、その販売動向を商品の流通管理や在庫管理に役立てることができる。

【 0 0 5 6 】

なお、以上で説明した利用者端末としては、現在普及している P C や携帯電話

、携帯情報端末等の既存のハードウェアが考えられる。

【 0 0 5 7 】

【発明の実施の形態】

〔実施の形態 1〕

本発明の実施の一形態について、図面に基づいて説明すれば以下の通りである。

【 0 0 5 8 】

（サービス対象物）

本発明において、サービスの対象となるサービス対象物は、商品の情報を補足する情報記録体であって、例えば、ワインのボトルに貼付されているラベルが該当する。すなわち、このような情報記録体の本来の目的は、商品自体の情報を表示するために補助的、義務的に形成されているものであり、視覚効果上、文字情報に加え、何らかの画像情報が付加されたものである。上記画像情報としては、風景画、風景等をイラスト化したもの、キャラクター等のように人工的に創り出されたもの、文字を装飾してロゴ化したもの、あるいは、それらの組み合わせ等がある。

【 0 0 5 9 】

なお、サービス対象物は、ワインのボトルに貼付されているラベルに限られるわけではなく、ビール、ウイスキー、日本酒等の他の酒類（アルコール飲料）やコーヒー、ジュース等の一般飲料のボトルあるいは缶にラベルあるいはシールとして貼付あるいは印刷されているデザイン（商品名、ロゴマーク、文字等を含む）、さらには、箱詰めされた商品のパッケージに直接印刷されているデザインを含む物であることは容易に察することができる。

【 0 0 6 0 】

本発明は、上記サービス対象物に貼付されているラベルに含まれる商品情報やデザインなどをそのまま電子データとして消費者（サービス受給者、契約者、利用者）に提供するものである。

【 0 0 6 1 】

（システム構成）

図2は、本発明のラベル情報提供方法を実現するラベル情報提供システムの全体構成と、このシステムをワインのラベル提供サービスに適用した場合の商品（ワイン）および情報の流れとを示している。

【0062】

このラベル情報提供システムでは、ワイン生産者1と、ワイン提供者2と、消費者（サービス受給者、契約者、利用者）3と、サービス提供者4との間で、商品または情報のやりとりが行われるようになっている。

【0063】

ワイン生産者1は、ワインの原料である葡萄を栽培・収穫し、選別、発酵、熟成等の過程を行って製造したワインを、最終形態としてボトル6に詰め、ワイン5として市場に提供する。例えば、ワイン生産者1は、ワイン5をワイン提供者2に納入する。このように、ワイン生産者1からワイン提供者2に対しては、物流が存在する。

【0064】

ワイン提供者2は、上記ワイン生産者1からワイン5を調達し、ワイン5を消費者3に提供する。ワイン提供者2としては、飲食店業者に限らず、小売り業者、卸売り業者、さらには、一般の酒類販売店、ディスカウント店であってもよい。さらには、インターネットによる電子商取引の如く、無店舗業者であってもよい。このように、ワイン提供者2から消費者3に対しては、直接的な物流が存在する。また、該物流を介して、ボトル6に貼付されたラベル7により、ワイン5に関する情報が、ワイン提供者2から消費者3に直接的に提供される。

【0065】

消費者3は、上記ワイン提供者2からワイン5を購入し、付加的な情報としてボトル6に貼付されているラベル7を取得する。ここで、図3（a）（b）は、ラベル7の一例を示している。ラベル7には、商品名、産地、生産者、アルコール度数、容量、葡萄の収穫年、品質等の通常のラベル情報7a（商品情報）に加えて、該ラベル情報7aと同じ情報を電子データとして入手するためのアクセス先情報7bが形成されている。

【0066】

アクセス先情報 7 b は、例えば、URL (Uniform Resource Locator) で示される。また、同図 (b) のアクセス先情報 7 b は、<http://www.rabel-service.com/> というフォルダの下のファイル (ファイル名: 123) に、ラベル情報 7 a の電子データが格納されていることを示している。

【0067】

なお、以下では、商品情報であるラベル情報 7 a の電子データを主に扱うため、ラベル情報 7 a と言え、特に断らない限り、電子データを指すものとして話を進める。

【0068】

該ファイル名は、ワイン 5 の個々に対応して作成されている。また、同一商品名であり、デザインも同じであるが、収穫年のみが異なる場合も、個々のラベル情報 7 a は異なる情報として扱われ、別々のファイルに保存される。この場合、他方のファイル名は、例えば 124 となる。

【0069】

このように、ラベル 7 に商品情報としてのラベル情報 7 a に加えて、アクセス先情報 7 b を形成しているので、消費者 3 は、ワイン 5 をワイン提供者 2 から購入した時点で、ボトル 6 に貼付されたラベル 7 から、サービス提供者 4 へアクセスするためのアクセス先を入手することができることになる。これにより、消費者 3 は、端末 10 を用いてサービス提供者 4 にアクセスすることにより、アクセス先からラベル 7 に関するラベル情報 7 a を電子データとして取得することが可能となっている。

【0070】

このように、消費者 3 からサービス提供者 4 に対しては、特定のワイン 5 のラベル 7 に関するラベル情報 7 a のリクエスト、サービス提供者 4 から消費者 3 に対しては、該リクエストに基づく上記ラベル情報 7 a の提供といった情報の流れが存在する。

【0071】

サービス提供者 4 は、消費者 3 の端末 10 からアクセス可能なようにネットワーク 8 に接続された状態にある端末 20 を有している。ネットワーク 8 は、イン

ターネットや電話回線等のパブリックネットワーク等で構成されている。

【0072】

サービス提供者4は、ワイン生産者1（より正確には、ワイン5のラベル7を作成する権限のあるもの）から、ボトル6に貼付されているラベル7と実質的に同一の情報であるラベル情報7aを電子データ（電子ファイル）という形で入手し、端末20の記憶部24（図4参照）に保存する。ワイン生産者1からサービス提供者4へのラベル情報7aの情報伝達は、フロッピーディスク、光ディスク等の取り出し可能な情報記録媒体を介して行ってもよいし、ネットワークを介して行ってもよい。

【0073】

なお、ワイン生産者1からラベル情報7aを電子ファイルで入手することが困難な場合には、ボトル6に貼付されているラベル7をスキャナ等により電子データとして端末20に取り込み、必要に応じて画像の加工を行い、印字品位を確保した上でサービス情報とする方法も考えられる。

【0074】

（装置構成）

次に、消費者3が有する端末10、および、サービス提供者4が有する端末20の詳細について説明する。

【0075】

図4は、消費者3とサービス提供者4とのネットワーク上の一般的な構成および機能の一例を示すブロック図である。なお、最も簡単なネットワーク構成は、消費者3の端末10とサービス提供者4の端末20とが接続されていることである。

【0076】

まず、消費者3の端末10について説明する。端末10（利用者端末）は、電話回線等のネットワーク8により、サービス提供者4側の端末20と接続されている。端末10は、ワイン5のラベル情報7aを取得するためのリクエストを行う手段および該ラベル情報7aを端末20から受信する手段としてのアクセス部と、該受信したラベル情報7aを出力するための画像形成部とからなっている。

【0077】

詳細には、該アクセス部は、入力部11と、送受信部12と、演算処理部13と、記憶部14とを備えている。一方、画像形成部は、電子写真方式あるいはインクジェット方式、熱転写方式等のプリンタであり、本実施形態では、出力部15が該当する。

【0078】

入力部11は、例えば、キーボード、マウス、ポインティングデバイス、イメージスキャナ、バーコードスキャナ等に接続するためのインターフェース、さらにはこれら入力装置であり、アクセス先情報7bをはじめ、必要に応じて、消費者3の情報（氏名、住所、連絡先など）、ワイン提供者2の情報（利用店名など）、商品情報（ワイン5の名称、収穫年、産地など）のような各種情報を入力するために用いられる。さらに、入力部11は、例えば、センサ（図示せず）からの出力情報を、端末10に取り込むためのインターフェースボードも含んでいる。

【0079】

送受信部12は、アクセス先（サービス提供者4の端末20）にアクセスしたり、該アクセス先からデータを受信する機能を有している。送受信部12は、端末10をPCとすれば、ネットワーク8に対して接続するためのインターフェースを司り、ネットワーク8が電話回線の場合には、例えば、モデムで構成される。また、送受信部12は、ローカルネットワーク16に接続するための機能を有していてもよい。

【0080】

演算処理部13は、入力部11、送受信部12、記憶部14および出力部15の制御を行うと共に、入力部11あるいは送受信部12から入力された情報に対して演算を行う部分であり、例えば、CPU、メモリで構成される。メモリは、処理結果を一時的に保存しておくためのRAM等のメモリである。演算処理をソフトウェア的に行う場合には、処理手順を記したプログラムを保存しておくための不揮発性メモリを用意する。あるいは、記憶部14にプログラムを保存しておき、プログラム動作時に該記憶部14から読み出し、RAM上で展開し作業して

もよい。

【0081】

記憶部14は、入力部11あるいは送受信部12から入力された情報および演算処理部13により行われた演算結果を記憶するものであり、例えば、ハードディスク、光ディスクで構成される。また、記憶部14は、アプリケーションプログラムを記憶したり、さらには、ダウンロードした電子データ（ラベル情報7a）を保存する機能も有している。記憶するアプリケーションプログラム内容としては、例えば、アクセス先の情報を閲覧・表示するためのブラウザがある。

【0082】

なお、上記入力部11および送受信部12、演算処理部13を有した既存の機器の利用により端末10を実現することを考えた場合、上記した記憶部14は通常有している機能であるが、特に必要というわけではない。上記機器としては、PC、携帯電話、携帯情報端末（例えば、Z A U R U S（登録商標）、P a l m 機）等が挙げられる。

【0083】

出力部15は、情報のソフトコピーおよびハードコピーを行うものであり、上記前者の場合はCRTあるいは液晶等のディスプレイが該当し、上記後者の場合はプリンタが該当する。

【0084】

なお、ここで出力部という場合には、出力インターフェースの機能部分を指す他、入手した情報をプリント出力するという本発明によるサービスの最終目的を達成するために必要とするならば、該出力インターフェースに接続された出力装置を含むものとする。

【0085】

このように考える理由は、一般に、画像形成部は、端末10の周辺機器として別体として構成されることが多く、それゆえ、端末10が必然的に有する機能ではないと言えるが、機能を分離して端末10を構成するか否かは、装置メーカー等による全くの取り決めによるところが大きいからである。

【0086】

端末10が出力部15を備えていることにより、端末20からダウンロードした所望のラベル情報7aに基づいて、プリントにより、元のラベル7を容易に、かつ、即座に復元することが可能となる。

【0087】

次に、サービス提供者4が有する端末20について説明する。サービス提供者4側の端末20（ラベル情報提供装置）は、電話回線等のネットワーク8により消費者3側の端末10と接続されている。端末20は、消費者3に対し、各種のラベル7に関する電子情報（ラベル情報7a）のダウンロードサービスを提供するために、ラベル情報7aを保存しており、消費者3からのリクエストに対し、所望のラベル情報7aを提供するための管理を行っている。端末20は、本発明のサービス管理ネットワークサービスの主要部をなすハードウェアである。

【0088】

端末20は、例えば、パーソナルコンピュータ（PC）、ワークステーション（WS）であり、図4に示すように、入力部21と、通信部22と、演算処理部23（制御手段）と、記憶部24（記憶手段）と、出力部25とから構成されている。端末20は、消費者3の端末10に対しては、サーバ的な位置づけになる。

【0089】

入力部21は、例えば、キーボード、マウス、ポインティングデバイス、イメージスキャナ、バーコードスキャナ等であり、消費者3の情報（氏名、住所、連絡先など）、ワイン提供者2の情報（利用店名など）、商品情報（ワイン5の名称、収穫年、産地など）のような各種情報を予め記憶部24に記憶させるために端末20側で入力する際に用いられる。入力部21は、さらには、例えば、センサ（図示せず）からの出力情報を、端末20に取り込むためのインターフェースボードも含んでいる。

【0090】

通信部22は、ネットワーク8に対して接続するためのインターフェースを司り、ネットワーク8が電話回線の場合には、例えば、モデムで構成される。また、通信部22は、ローカルネットワーク26に接続するための機能を有していて

もよい。

【0091】

記憶部24は、入力部21あるいは通信部22から入力された情報および演算処理部23により行われた演算結果を記憶するものであり、例えば、ハードディスク、光ディスクで構成される。なお、記憶部24は、本発明の記録媒体に相当する。また、記憶部24は、少なくとも商品情報を記載したラベル7に関するラベル情報7aを、上記ラベル7が貼付される商品の種類ごとに記憶する。なお、この点について後述する。

【0092】

また、記憶部24は、ラベル情報7aを入手するワイン生産者1の情報（会社名、住所、契約日、電話・メールアドレス等）を記した管理ファイルや、本発明によるサービス管理方法の処理フローを記したアプリケーションプログラム等を記憶していてもよい。

【0093】

演算処理部23は、入力部21、通信部22、記憶部24、出力部25の制御を行うと共に、入力部21あるいは通信部22から入力された情報に対して演算を行う部分であり、例えば、CPU、メモリで構成される。メモリは、処理結果を一時的に保存しておくためのRAM等のメモリである。演算処理をソフトウェア的に行う場合には、処理手順を記したプログラムを保存しておくための不揮発性メモリを用意する。あるいは、記憶部24にプログラムを保存しておき、プログラム動作時に該記憶部24から読み出し、RAM上で展開し作業してもよい。

【0094】

また、演算処理部23は、消費者3が任意の商品に貼付されているラベル7に関するラベル情報7aのダウンロードを要求するために上記商品に形成されたアクセス先情報7bに基づいて、利用者端末（端末10）からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報7aを上記記憶部24から読み出して、通信部22を介して上記利用者端末に送出する機能を有している。

【0095】

出力部25は、情報のソフトコピーおよびハードコピーを行うものであり、上

記前者の場合はCRTあるいは液晶等のディスプレイが該当し、上記後者の場合はプリンタが該当する。ペーパーレス化が推進され、また、電子処理（電子決済には限られない）が可能な状況下では、プリンタは必ずしも必要ではない。

【0096】

次に、記憶部24における記憶内容について説明する。記憶部24が記憶するデータベース内容としては、例えば、図5（a）（b）に示すワイン5のラベル情報7aがある。

【0097】

本実施形態では、記憶部24は、図5（a）のように、ラベル7ごとに、つまり、ラベル7が貼付される商品の種類ごとに、ラベル情報7aのファイルを作成して管理している。該ファイルの主体は、電子化された画像情報であり、jpeg（あるいはjpg）、bmp、jif等の適当な画像形式で作成されている。本発明においては、どのような消費者3に対しても利用可能なファイル形式が必要であることから、汎用の画像形式であることが望まれる。また、ボトル6に貼付されているラベル7と同様の画質を有する画像情報を、ネットワーク8を介してダウンロードする必要があることから、情報量の削減が要求されるため、上記画像情報は、圧縮処理された高品位画像であることが好ましい。

【0098】

図5（b）は、ファイル名123のファイルを用いて、画像形成装置によりラベル情報7aをプリント出力した結果を模式的に示している。図3（b）と比較すれば分かるように、本サービスのために付加したアクセス先情報7bを除き、ボトル6に貼付されているラベル7を正確に復元できている。

【0099】

なお、ファイルの情報としては上記の画像情報のみならず、後述するダウンロードサービス実行過程にて、消費者3が端末20にアクセスしてきた場合に、端末10に初期画面として表示させる情報を含むものであってもよい。図6は、消費者3の端末10が表示した、ファイル名：123.htmの表示画面の一例を示している。該ファイルは、html（hyper text markup language）言語により記述されている。また、該文書には、消費者3がリクエストしたワイン5の情

報（名称、収穫年、産地等）が記されている。画面31に上記情報を表示させることにより、消費者3は、ダウンロードしようとするラベル情報7aの内容を確認することができ、ダウンロードを実行すべきか否かを判断することができる。

【0100】

また、消費者3がリクエストしたワイン5に関連する情報あるいはサービス提供者4からの電子広告を、画面31に直接的に表示あるいはリンク等の手段により間接的に表示するようにしてもよい。

【0101】

（システム全体の動作）

次に、本システムの動作について説明する。本システムでの処理は、図1に示すように、大きく分けて、情報収集過程（S1）、アクセス先情報ラベル貼付過程（S2）、ダウンロードサービス実行過程（S3）、からなっている。なお、S1、S2の順序は問わず、S3の過程の前に、S1およびS2の過程が終了していればよい。

【0102】

上記各過程について、まず、簡単に説明すると、上記情報収集過程では、ボトル6に貼付されたラベル7のラベル情報7aをサービス提供者4が収集し、収集したラベル情報7aを端末20の記憶部24に記憶させる処理が行われる。つまり、この過程では、少なくとも商品情報を記載したラベル7に関するラベル情報7aを、上記ラベル7が貼付される商品（ワイン5）の種類ごとに記憶部24に記憶させる処理が行われる。

【0103】

上記アクセス先情報ラベル貼付過程では、消費者3がラベル情報7aの取得が可能なアクセス先を記載したラベル7を、上記ラベル情報7aに対応するボトル6に貼付する処理が行われる。言い換えれば、上記過程では、消費者3が任意の商品に貼付されているラベル7に関するラベル情報7aのダウンロードを要求するためのアクセス先情報7bを、上記商品に形成する処理が行われる。

【0104】

上記ダウンロードサービス実行過程では、アクセス内容に応じたラベル情報7

a を、サービス提供者 4 が消費者 3 に送出する処理が行われる。つまり、上記過程では、上記アクセス先情報 7 b に基づいて端末 10 からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求されたラベル情報 7 a を記憶部 24 から読み出して、端末 10 に送出する処理が行われる。

【0105】

以下、上記各過程の詳細について説明する。

【0106】

(情報収集過程)

サービス提供者 4 は、ワイン生産者 1 から、該ワイン生産者 1 が製造しているワイン 5 に関するラベル情報 7 a を入手する。より詳細には、ワイン 5 の種別が多岐にわたる場合には、ワイン 5 ごとに各ラベル情報 7 a を別々の電子ファイルとして端末 20 の記憶部 24 に保存する。

【0107】

このとき、例えば、同一の商品名であっても、収穫年が異なる場合等のように、ラベル情報 7 a の一部でも異なれば、これらのラベル情報 7 a を別ファイルとして作成し、保存する。また、今後の管理をしやすくする等のために、ワイン生産者 1 が複数存在する場合には、該ラベル情報 7 a をワイン生産者情報と関連付けて記憶部 24 に記憶させてもよい。また、ラベル情報 7 a をワイン 5 の産地情報、収穫年情報等のワイン 5 に関する情報と関連付けて記憶部 24 に記憶させてもよい。

【0108】

ワイン生産者 1 やワイン 5 に関する情報を記憶部 24 に記憶しておくことにより、消費者 3 は、ラベル情報 7 a と関連付けられた上記情報をキーワードとして、後述する実施の形態 2 で示すような絞り込み検索（図 10 ないし図 12 参照）を行うことができる。

【0109】

なお、先の図 5 (a) では、ファイル名を数字化して示しているが、この場合、数字化情報とワイン 5 の一般情報とを関連付けておくための管理ファイルを作成しておく必要がある。しかし、ファイル名をコード化して「FCN2000、

j p g」等のように、ファイル名からファイル内容をある程度推定できるようにしておけば、上記のような管理ファイルを作成する必要性はない。ここで、“F”は、フランス産を意味し、次の“CN”は商品名（CHATEAU NERVEUXの頭文字）、最後の“2000”は収穫年を表す。しかし、ワイン5を特定するためには、生産者名、品質レベル等の情報が必要であり、これら特定に必要な情報をファイル名に用いると長くなるので、管理ファイルとの併用が好ましいと考えられる。

【0110】

以上のようにして、サービス提供者4が管理する端末20の記憶部24に、ワイン種別ごとに電子ファイルがデータベース化されて保存される。

【0111】

（アクセス先情報ラベル貼付過程）

アクセス先情報貼付ラベルとしては、図3（a）（b）のように、ラベル情報7aとアクセス先情報7bとを同じラベル7に形成する場合は、このラベル7が該当する。アクセス先情報7bのラベル7への形成は、ラベル7の印刷時に、商品情報としてのラベル情報7aと同時に行ってよいが、先に上記ラベル情報7aを印刷によりラベル7に形成した後、別の画像形成手段によりアクセス先情報7bを形成してもよい。後者の場合、前者の方法に比べて、画像形成ステップが増えることになるが、電子写真あるいはインクジェット方式等のように、印刷に比べて取り扱いが簡単な方法で行えるため、URL名が変更になった場合等においても、版下等を変更することなく電子データの変更のみで対応することができ、簡単かつ迅速、費用発生を伴わないという利点がある。

【0112】

本過程では、このようにして形成されるアクセス先情報ラベル（ラベル7）が、ワイン5のボトル6に貼付される。

【0113】

ところで、本過程では、図7（a）（b）に示すように、商品情報であるラベル情報7aをラベル7cに記す一方、アクセス先情報7bを上記のラベル7cとは別体のラベル7d（アクセス先情報ラベル）に記してラベル7を構成し、ラベ

ル 7 c ・ 7 d を別々にボトル 6 に貼付するようにしてもよい。その理由は以下の通りである。

【 0 1 1 4 】

図 3 (a) (b) のように、上記ラベル情報 7 a とアクセス先情報 7 b とを 1 枚のラベル 7 に形成した場合、本発明において形成されるアクセス先情報 7 b が上記ラベル情報 7 a と混同されて、ワイン 5 に関するオリジナル情報と見なされるおそれがある。

【 0 1 1 5 】

また、アクセス先情報 7 b をラベル 7 に形成するタイミングが、基本的にラベル 7 のボトル 6 への貼付前という制約もある。これは、上記ラベル情報 7 a のみが形成されたラベル 7 がボトル 6 に貼付された状態で、該ラベル 7 にアクセス先情報 7 b を形成しようとする、ラベル 7 はボトル 6 の側面に沿って円弧上に形成されているので、通常の平面に印字するよう設計されたプリンタでは、情報の歪みなしに該ラベル 7 にアクセス先情報 7 b を印字することができないからである。

【 0 1 1 6 】

これに対して、図 7 (a) (b) のように、ラベル 7 c ・ 7 d を別体にしてラベル 7 を構成すれば、ラベル 7 c ・ 7 d が外見上明確に区別されているので、ラベル 7 d に記されたアクセス先情報 7 b が、ラベル 7 c に記された上記ラベル情報 7 a と混同される可能性がほとんどなく、アクセス先情報 7 b がワイン 5 のオリジナル情報と見なされる可能性がほとんどない。

【 0 1 1 7 】

また、上記ラベル情報 7 a とアクセス先情報 7 b とをそれぞれ別々のラベル 7 c ・ 7 d に形成することにより、上記ラベル情報 7 a のラベル 7 c への形成とは別系統でアクセス先情報 7 b のラベル 7 d への形成ができる。また、ラベル 7 d のボトル 6 への貼付タイミングもラベル 7 c とは必ずしも同一である必要がない。したがって、ラベル 7 d のボトル 6 への貼付を、ラベル 7 c よりも先あるいは後で行うことが可能になり、貼付タイミングの制約を大幅に緩和することができる。

【0118】

このとき、ラベル7cよりも先あるいは同時にラベル7dをボトル6に貼付するとなると、この作業はワイン生産者1の作業工程として付加されるため、ワイン生産者1の負荷が増加することになる。しかし、ワイン生産者1からワイン5の提供を受け、サービス提供者4がラベル7dの作成および貼付を行う等のように、ワイン生産者1からの出荷後にラベル7dの貼付作業を行うようにすれば、ワイン生産者1に負担をかけることがないので、ワイン生産者1からの協力を得やすいというメリットがある。

【0119】

また、サービスを実現するための主要作業であるアクセス先情報7bのボトル6に対する形成作業（ラベル7cのボトル6への貼付作業）を、サービス提供者4の管理・責任の下で行うことにより、ワイン生産者1のミスによるアクセス先情報7bの未形成といったトラブルを排除することができるので、質の高いサービスを提供することができる。

【0120】

また、ワイン5が輸入品等の場合には、一般に、輸入業者名等の情報を表示することを目的として、図8(a)に示すように、ボトル6の表面においてラベル7(7c)の貼付面とは反対側の面に上記情報を記載したラベル7eを貼付することが多い。そこで、図8(b)に示すように、上記ラベル7eに、アクセス先情報7bを形成するようにしても勿論構わない。

【0121】

また、以上では、アクセス先情報7bとしてURL名を用いたが、該URLにアクセスするためには、端末10に再度該URL情報を入力しなければならないという煩雑さがある。また、入力ミスがあると、所望の情報を入手できないという問題もある。

【0122】

そこで、例えば、図9に示すように、アクセス先情報7bをバーコード情報7fとして形成したラベル7(7d・7e)をボトル6に貼付してもよい。この場合、次に示すダウンロードサービス実行過程において、該バーコード情報7fを

専用の読み取り装置により取り込んで、該バーコード情報 7 f を解読する他のサービスを利用することにより、自動的に、しかも、容易に所望の URL にアクセスすることができる。

【 0 1 2 3 】

(ダウンロードサービス実行過程)

ここでは、アクセス手段をインターネットとし、表示ソフトウェアとしてブラウザを用いる例について説明する。

【 0 1 2 4 】

図 4 において、まず、消費者 3 側で通信を確立することにより、端末 1 0 がネットワーク 8 と接続される。次に、端末 1 0 でブラウザが立ち上がった状態で、消費者 3 は入力部 1 1 により、ワイン提供者 2 から購入したワイン 5 に貼付されているラベル 7 に記載されているアクセス先情報 7 b (例えば、“www.rabel-service.com/123.htm”)を入力する。以降、ブラウザの機能により、端末 1 0 とサーバ (サービス提供者 4 の端末 2 0) との間で交信が行われることとなる。

【 0 1 2 5 】

サービス提供者 4 の端末 2 0 では、端末 1 0 からのアクセスを通信部 2 2 で受信し、端末 1 0 からのリクエスト内容を演算処理部 2 3 により分析する。例えば、ファイル名 1 2 3 . j p g のダウンロードが要求されていれば、演算処理部 2 3 は、端末 1 0 にて初期画面として表示すべきファイル 1 2 3 に関する情報 (1 2 3 . h t m) を記憶部 2 4 から検索し、上記情報を通信部 2 2 から端末 1 0 へ送信させる。

【 0 1 2 6 】

端末 1 0 の送受信部 1 6 が上記 URL の上記情報を受信すると、演算処理部 1 3 は、図 6 で示したように、上記情報を出力部 1 5 の表示部に表示させる。消費者 3 は、表示された情報がダウンロードすべきラベル情報 7 a に対応する情報であるか否かを確認した後、画面 3 1 内のダウンロードの実行ボタンをクリックする。なお、ダウンロードの際の目安として画像形式および画像ファイルサイズが付加的情報として記載されている。

【 0 1 2 7 】

端末 2 0 の演算処理部 2 3 は、端末 1 0 にて消費者 3 が上記情報（1 2 3 . h t m）の受信に基づきダウンロード実行ボタンをクリックしたことを検出すると、画像ファイル（ファイル名：1 2 3 j p g）を通信部 2 2 を介して端末 1 0 に送信する。これにより、画像ファイルのダウンロードが実行される。

【 0 1 2 8 】

このとき、消費者 3 は、上記画像ファイルの保存先を入力部 1 1 により指定あるいは変更しておくことにより、記憶部 1 4 の設定されたディレクトリ内に上記画像ファイルがダウンロードされる。

【 0 1 2 9 】

ダウンロードが正常に終了すると、端末 1 0 とネットワーク 8 との接続を解除してもよい。その後、消費者 3 は、ダウンロードした画像ファイルを出力部 1 5 によりプリントアウトする。カラーマッチング等が保証されていれば、特別に編集作業を行うことなく、ダウンロードした画像ファイルをオープンし、印刷コマンドをクリックすることにより印刷が実行される。これにより、購入したワイン 5 に貼付されているラベル 7 と同じ内容のラベル 7 が復元される。

【 0 1 3 0 】

以上のように、本実施形態では、端末 2 0 の記憶部 2 4 に各種ワイン 5 のラベル情報 7 a を格納しておく一方で、各種ワイン 5 のボトル 6 には、アクセス先情報 7 b を記載したラベル 7（7 b・7 e）を貼付している。これにより、ワイン 5 を購入した消費者 3 は、上記アクセス先情報 7 b を基にしてサービス提供者 4 にアクセスすることが可能になり、また、このアクセスによって、サービス提供者 4 から所望のラベル情報 7 a を電子データとして取得することができる。その結果、上述のように、このラベル情報 7 a に基づいて、ボトル 6 に貼付されているラベル 7 と同じ品質のラベルをプリンタ等により容易に復元することができる。

【 0 1 3 1 】

したがって、透明シートを用いてボトル 6 からラベル 7 の引き剥がし作業を行う従来のように、ラベル 7 が破けたり、一部のみしか得られなかったりするといようなことがない。その結果、ワイン 5 を購入した消費者 3 が、ワイン 5 のラ

ベル 7 と同一のものを、その品質を落とすことなく簡単に取得することができる。

【0132】

また、ラベル情報 7 a は、ワイン 5 の内容そのものを示す情報であり、それゆえ、上記ラベル情報 7 a に基づいて復元されたラベル 7 でも、ワイン 5 の履歴書としての価値を十分に有するものとなる。その結果、復元されたラベル 7 を用いて、第三者とワイン 5 に関する意見交換も十分に行うことができる。

【0133】

なお、本実施形態では、アクセス先情報 7 b を記載したラベル 7 (7 b・7 e) をワイン 5 のボトル 6 に貼付する例について説明したが、上記ラベル 7 をボトル 6 に貼付しなくても、例えば、アクセス先情報 7 b を絵符に記載し、この絵符をボトル 6 に巻き付けるようにしてもよい。

【0134】

また、例えば、アクセス先情報 7 b を記載したラベル 7 をボトル 6 に貼付せずに、ワイン 5 の購入時にワイン提供者 2 からアクセス先情報 7 b を記載したパンフレットなどを受け取ることで、消費者 3 は、上記アクセス先情報 7 b を知ることができる。この場合でも、ワイン 5 を購入したものだけに対して、ラベル情報 7 a のダウンロードサービスを提供できることに変わりはない。

【0135】

また、ワイン購入者を対象としないのであれば、例えば、ワイン 5 を扱う雑誌にアクセス先情報 7 b を掲載すれば、利用者はその雑誌を購入することによってアクセス先情報を入手することができ、ラベル情報 7 a のダウンロードを要求することができる。

【0136】

したがって、上記したアクセス先情報貼付過程は、本発明のラベル情報提供方法を実現するのに必ずしも必要というわけではない。しかし、上記アクセス先情報貼付過程を実行することにより、ワイン 5 の購入者のみを対象としたラベル情報 7 a の提供サービスを確実に行うことができる。

【0137】

〔実施の形態 2〕

本発明の他の実施の形態について、図面に基づいて説明すれば以下の通りである。なお、説明の便宜上、実施の形態 1 と同一の構成には同一の部材番号を付記し、その説明を省略する。

【0138】

上述の実施の形態 1 では、ワイン 5 の種別ごとに、ボトル 6 にラベル情報 7 a のアクセス先を形成したが、ワイン 5 の種類が多くなると、情報の管理、形成が大変であるという問題がある。これを解決するために、本実施形態では、ボトル 6 に形成するアクセス先情報 7 b としては、本サービスを提供する URL 情報のみ（ファイル名を除く）とし、希望するラベル 7 の特定は、消費者 3 側での入力に基づく検索により行うようにしている。図 1 0 ないし図 1 2 は、消費者 3 がラベル 7 に付された URL を基にサービス提供者 4 の端末 2 0 にアクセスした結果、端末 1 0 が表示する検索画面の一例を示している。

【0139】

このうち、図 1 0 は、消費者 3 がワイン情報のみを入力する場合の検索画面の一例であり、最も基本となる画面を示している。ワイン 5 の名称、収穫年、産地等、ワイン 5 の検索に必要な情報については予め記憶部 2 4 に記憶されている。消費者 3 は、図 1 0 の表示画面において、ワイン 5 の検索に必要な情報を入力し、その後、検索ボタンをクリックすると、端末 2 0 の演算処理部 2 3 は、上記情報をキーワードとして記憶部 2 4 に記憶されているラベル情報 7 a の検索を行う。

【0140】

端末 1 0 にて入力ミス等がなければ、演算処理部 2 3 は、検索結果として、図 6 に示したのと同様の画面 3 1 を端末 1 0 に表示させる。一方、端末 1 0 側で入力ミスあるいはサービス対象外の情報が入力された場合には、演算処理部 2 3 は、「入力された情報は、本データベースには存在しません。」等のエラーメッセージを端末 1 0 に表示させ、再入力の催促および警告を行う。図 6 の画面 3 1 において、ダウンロード実行ボタンがクリックされると、演算処理部 2 3 は、上記検索結果に対応するラベル情報 7 a を端末 1 0 に送出する。

【 0 1 4 1 】

このように、演算処理部 2 3 は、消費者 3 が任意の商品に貼付されているラベル 7 に関するラベル情報 7 a のダウンロードを要求するためのアクセス先情報 7 b に基づいて端末 1 0 からのアクセスがあり、端末 1 0 にて、ダウンロードが要求されるラベル情報 7 a に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて記憶部 2 4 に記憶されているラベル情報 7 a の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報 7 a を端末 1 0 に送出する。

【 0 1 4 2 】

これにより、記憶部 2 4 は、ラベル情報 7 a を商品ごとに管理しなくても、演算処理部 2 3 による検索により、消費者 3 が要求する所望のラベル情報 7 a を検出することができる。したがって、記憶部 2 4 が記憶するラベル情報 7 a が膨大な量となり、商品ごとの管理が困難になるような場合に、本実施形態の構成は非常に有効となる。

【 0 1 4 3 】

また、図 1 1 は、上記ワイン情報に加えて、さらに、利用店名情報（ワイン提供者情報）の入力を要求する場合の端末 1 0 の表示画面の一例を示している。なお、この場合、サービス提供者 4 は、ワイン情報のみならず利用店名情報もデータベース化して記憶部 2 4 に保存しておくことが前提である。演算処理部 2 3 は、端末 1 0 にて入力された利用店名が登録された利用店名であるかを判断し、これらが一致する場合にのみ、端末 1 0 に検索結果を応答するようになっている。

【 0 1 4 4 】

本サービスの目的が、ワイン 5 の購入者に対する付加的なサービスであることを基本とするならば、本検索データベースへのアクセス者をワイン購入者に限定することが望まれる。その一手段として、上記のようにワイン 5 を販売・提供した利用店名の入力を要求するのである。

【 0 1 4 5 】

なお、利用店名としては、直接的な入力であってもよいし、1 8 1 5 0 7 等のようにコード化したものであってもよい。コード化する場合には、実際の名称等との関連を記したファイルを記憶部 2 4 に形成・保存しておき、該ファイルに基

づいてコード情報を解読するようにすればよい。

【0146】

また、該サービスを一度利用した消費者3が、他のワイン5のラベル7の入手のみを目的として、該他のワイン5の購入なしにアクセスしてくる場合がある。このようなアクセス者の排除を防止する目的のためには、サービス提供者4は、利用店名に代えてパスワードの入力を要求するようにしてもよい。該パスワード情報は、ワイン提供者2が消費者3に対し、購入されたワイン5の種別に応じて与える形態を想定することができる。

【0147】

つまり、記憶部24は、商品（この例ではワイン5）を消費者3に提供する商品提供者情報（利用店名）および／または商品提供者（ワイン提供者2）から提供されるパスワードを記憶し、演算処理部23が、端末10にて入力された商品提供者情報および／またはパスワードが、記憶部24に記憶されている情報の中に存在するか否かを判断し、存在すると判断した場合にのみ、検索結果に対応するラベル情報を端末10に送出する構成であってもよいと言える。

【0148】

また、サービス提供者4は利用店情報を入手することができるので、「あるワイン5がどのワイン提供者2から最も販売されているか」等の情報を収集することができ、該情報をワイン提供者2さらにはワイン生産者1にフィードバックすることにより、流通管理を行うこともできる。

【0149】

一方、図12は、図10および図11で示した入力情報に加え、さらに、ワイン5の利用者名、住所、連絡先などの利用者情報（消費者3の情報）の入力を要求する場合の端末10の表示画面の一例である。なお、端末10側にて入力された利用者情報は、演算処理部23の制御により、例えば端末20の記憶部24の利用者情報テーブル内に記憶され、利用者ごとに管理される。

【0150】

この場合、サービス提供者4は、消費者3の情報を利用者情報として入手することができるので、上述の効果に加え、ワイン5の関連情報、例えば、ディスカ

ウント情報、入荷情報等の有用な情報を郵便あるいは電子メール等により消費者 3 に伝達することが可能となり、販売後において波及効果が生じる。

【 0 1 5 1 】

また、利用店名（＝ワイン提供者 2）と利用者情報（＝消費者 3）とを関連付けることにより、利用者情報をワイン提供者 2 が消費者 3 に対して行うさらなる付加的なサービス業務に役立てることが可能となる。なお、利用店名と利用者情報との関連付けは、演算処理部 2 3 の制御により、例えば記憶部 2 4 のサービス管理テーブル内で、各消費者 3 ごとに管理される。

【 0 1 5 2 】

なお、実際のラベル 7 が含んでいる情報と電子データで与えられるラベル情報 7 a とは必ずしも同一でなくてもよく、例えば、ラベル 7 において不必要と思われる情報をラベル情報 7 a から意識的に排除してもよい。例えば、ラベル 7 等には、画像情報以外に、商品が食料品等であれば原材料名等の記載があるが、該ラベル 7 のデザインのみに有用性があると認められる場合には、オリジナルの画像情報から文字情報を削除した情報であってもよい。

【 0 1 5 3 】

ところで、以上の各実施形態で説明した端末 2 0 での処理は、プログラムで実現することが可能である。このプログラムはコンピュータで読み取り可能な記録媒体に格納されている。本発明では、この記録媒体として、上記記憶部 2 4 であってもよいし、サービス提供者 4 の端末 2 0 で処理が行われるために必要な図示していないメモリ（例えば ROM そのもの）であってもよいし、また図示していないが外部記憶装置としてプログラム読み取り装置が設けられ、そこに記録媒体を挿入することで読み取り可能なプログラムメディアであってもよい。

【 0 1 5 4 】

上記いずれの場合においても、格納されているプログラムはマイクロプロセッサ（図示せず）のアクセスにより実行される構成であってもよいし、格納されているプログラムを読み出し、読み出したプログラムを配信サーバーおよび受信サーバー図示されていないプログラム記憶エリアにダウンロードすることにより、そのプログラムが実行される構成であってもよい。この場合、ダウンロード用の

プログラムは予め本体装置に格納されているものとする。

【0155】

ここで、上記プログラムメディアは、本体と分離可能に構成される記録媒体であり、磁気テープやカセットテープ等のテープ系、フロッピーディスクやハードディスク等の磁気ディスクやCD-ROM/MO/MD/DVD等の光ディスクのディスク系、ICカード（メモリカードを含む）/光カード等のカード系、あるいはマスクROM、EPROM、EEPROM、フラッシュROM等による半導体メモリを含めた固定的にプログラムを担持する媒体であってもよい。

【0156】

また、本発明においては、インターネットを含む通信ネットワークと接続可能なシステム構成であることから、通信ネットワークからプログラムをダウンロードするように流動的にプログラムを担持する媒体であってもよい。なお、このように通信ネットワークからプログラムをダウンロードする場合には、そのダウンロード用プログラムは予め本体装置に格納しておくか、あるいは別な記録媒体からインストールされるものであってもよい。

【0157】

なお、記録媒体に格納されている内容としてはプログラムに限定されず、データであってもよい。

【0158】

以上のことから、本発明に係るラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体は、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶する処理と、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出して、上記利用者端末に送出する処理とをコンピュータに実行させるためのプログラムを記録してなっていると言えることができる。

【0159】

また、本発明に係るラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体は、少なく

とも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶すると共に、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶する処理と、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する処理とをコンピュータに実行させるためのプログラムを記録してなっているということもできる。

【0160】

また、以上で説明したラベル情報提供方法は、以下の第1～第3のラベル情報提供方法とも表現することができる。

【0161】

第1のラベル情報提供方法は、商品情報を形成したラベルに関する電子データを登録するステップと、該電子データのアクセス先を商品に形成するステップと、アクセス内容に応じた電子データをアクセス元に対し送出するステップとを有している構成である。

【0162】

これによれば、商品に付随しているラベル、シール等の情報と同一の情報を、電子データの形で提供することができ、該サービスを受けるサービス受給者は、簡単な方法および手段によって、該情報を入手することができる。また、ラベルと同じ情報が電子データであるので、復元、複製等が可能となり、情報の形成に失敗したとしても、やり直しが利くというメリットがある。

【0163】

また、アクセス時に、商品情報の他、該商品を購入した店舗情報、さらには、購入者情報を入力することを要求するようにすれば、実際の商品を購入した人に対してのみアクセスを限定することができるようになるので、単なる無償のデータ提供サービスに陥ることなく、本発明のサービスを受給するために実際の商品の購入を行うというサービス受給者層を開拓することができる。

【 0 1 6 4 】

さらに、商品を購入した店舗情報と購入者情報とを関連付けるならば、商品の販売動向情報を入手することができ、流通管理、在庫管理に役立てることができる。また、購入者に対する店舗側の販売促進サービスを行うことが可能となる。

【 0 1 6 5 】

第 2 のラベル情報提供方法は、上記第 1 のラベル作成サービス方法において、上記電子データのアクセス先の情報は、URL である構成である。

【 0 1 6 6 】

これにより、現在普及している PC（パーソナル・コンピュータ）あるいは携帯電話等の既存のハードウェアおよびインターネット技術（i モードなどのインターネット接続サービス）を利用するだけで、電子データのリクエストおよび入手が可能となる。

【 0 1 6 7 】

第 3 のラベル情報提供方法は、上記第 2 のラベル作成サービス方法において、上記電子データのアクセス先の情報は、URL 情報をバーコード化した情報である構成である。

【 0 1 6 8 】

これにより、PC、携帯電話、携帯情報端末等の情報アクセス手段に、URL 情報を入力する際の手間・労力を削減することができる。

【 0 1 6 9 】

また、本発明の商品は、パッケージ等の商品情報を記した情報記録体（ラベル）に形成されている情報の電子データをダウンロードするためのアクセス情報を、該パッケージに形成した構成である。これにより、上記ラベル情報提供方法を簡単な方法で実現することができる。

【 0 1 7 0 】

また、アクセス情報を記した情報記録体を従来のラベルとは別体に形成するようにすれば、ラベルとは別に作成でき、また、ラベルとは別の工程で商品に貼付することができるので、たとえば、商品の製造メーカーが商品を出荷後に、サービス提供者等の第三者によって、アクセス情報が記された情報記録体を作成・貼付

することが可能となる。これにより、製造メーカーの負荷の増加なしに、本発明が必要とするアクセス情報の形成を行うことができる。

【 0 1 7 1 】

また、本発明のラベル情報提供装置は、商品情報を形成したラベルに関する電子データを登録する記憶部と、該電子データのダウンロードを受け付ける通信部と、アクセス内容に応じて、登録された上記電子データの中から所望の電子データを特定する演算処理部とからなる構成とも表現することもできる。

【 0 1 7 2 】

これによれば、予め、商品情報を形成したラベルに関する電子データを登録しておくことにより、従来の物流サービスに加え、ネットワークを介しての情報の提供を行うことができる。

【 0 1 7 3 】

また、登録時に電子データ情報と、商品名、生産者、生産年、品質区分等の商品情報とを関連付けて記憶部に保存しておくならば、該商品情報を基に複数ある電子データの中から所望のデータの特定、検索を行うことが可能となり、結果的に、商品に形成するアクセス先情報を省略することができる。

【 0 1 7 4 】

【発明の効果】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶手段に記憶するステップと、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて利用者端末からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出して、上記利用者端末に送出するステップとを有している構成である。

【 0 1 7 5 】

また、本発明に係るラベル情報提供装置は、以上のように、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶する記憶手段と、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関す

るラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあった場合に、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出して、上記利用者端末に送出する制御手段とを備えている構成である。

【0176】

それゆえ、アクセス先情報に基づいて、利用者端末から上記ラベル情報のダウンロードを要求するアクセスがあった場合には、制御手段は、ダウンロードが要求された上記ラベル情報を上記記憶手段から読み出し、上記利用者端末に送出する。これにより、利用者端末側では、受信したラベル情報に基づいて、例えばプリンタ等により元のラベルを容易に復元することが可能となる。

【0177】

したがって、サービスの利用者であれば誰でも簡単にラベルを取得することができる。また、上記構成では、受信したラベル情報に基づいてラベルを復元できるので、透明シールを用いてラベルそのものを引き剥がす従来のように、ラベルが破けたり、一部のみしか得られなかったりして、取得したラベルの品位を損なうこともない。

【0178】

また、受信したラベル情報に基づいてプリンタ等によりラベルを復元できるので、プリントする媒体（用紙）として適切な厚みのものを選択すれば、復元したラベルを安定して保存するための台紙を不要とすることができ、しかも、この場合、復元したラベル裏面の美観が損なわれることもない。

【0179】

また、ラベル情報は、商品の内容そのものを示す情報であり、それゆえ、上記ラベル情報に基づいて復元されたラベルでも、商品の内容を示す情報として価値ある情報を十分に有している。その結果、復元されたラベルを用いて、第三者と商品に関する意見交換も十分に行うことができるという効果を併せて奏する。

【0180】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに

記憶手段に記憶するステップと、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶手段に記憶するステップと、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて利用者端末からのアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出するステップとを有している構成である。

【 0 1 8 1 】

また、本発明に係るラベル情報提供装置は、以上のように、少なくとも商品情報を記載したラベルに関するラベル情報を、上記ラベルが貼付される商品の種類ごとに記憶すると共に、上記ラベル情報に含まれる上記商品情報を、上記ラベル情報と関連付けて記憶する記憶手段と、利用者が任意の商品に貼付されているラベルに関するラベル情報のダウンロードを要求するためのアクセス先情報に基づいて、利用者端末からのアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する制御手段とを備えている構成である。

【 0 1 8 2 】

それゆえ、アクセス先情報に基づいて、利用者端末から上記ラベル情報のダウンロードを要求するアクセスがあり、利用者端末にて、ダウンロードが要求される上記ラベル情報に含まれる商品情報が入力されたときに、制御手段は、入力された商品情報に基づいて上記記憶手段に記憶されているラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する。その結果、利用者端末側では、受信したラベル情報に基づいて、例えばプリンタ等により元のラベルを容易に復元することが可能となる。

【 0 1 8 3 】

したがって、サービスの利用者であれば誰でも簡単にラベルを取得することが

できる。また、上記構成では、受信したラベル情報に基づいてラベルを復元できるので、透明シールを用いてラベルそのものを引き剥がす従来のように、ラベルが破けたり、一部のみしか得られなかったりして、取得したラベルの品位を損なうこともない。

【 0 1 8 4 】

また、受信したラベル情報に基づいてプリンタ等によりラベルを復元できるので、プリントする媒体（用紙）として適切な厚みのものを選択すれば、復元したラベルを安定して保存するための台紙を不要とすることができ、しかも、この場合、復元したラベル裏面の美観が損なわれることもない。

【 0 1 8 5 】

また、ラベル情報は、商品の内容そのものを示す情報であり、それゆえ、上記ラベル情報に基づいて復元されたラベルでも、商品の内容を示す情報として価値ある情報を十分に有している。その結果、復元されたラベルを用いて、第三者と商品に関する意見交換も十分に行うことができる。

【 0 1 8 6 】

さらに、上記構成では、制御手段は、入力された商品情報に基づいてラベル情報の検索を行い、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出するので、記憶手段では、ラベル情報を例えば個々の商品ごとにファイルとして管理する必要がなくなる。つまり、記憶手段がラベル情報を商品ごとに管理しなくても、入力された商品情報に基づく制御手段による検索により、利用者が要求する所望のラベル情報を検出することができる。したがって、例えば記憶手段が記憶するラベル情報が膨大な量となり、商品ごとの管理が困難になるような場合でも、利用者に所望のラベル情報を提供することができるという効果を併せて奏する。

【 0 1 8 7 】

本発明に係るラベル情報提供プログラムを記録した記録媒体は、以上のように、上記したラベル情報提供方法による処理をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録してなる構成である。

【 0 1 8 8 】

それゆえ、上記プログラムをコンピュータ（例えばラベル情報提供装置）が実

行することによって、上述したラベル情報提供方法による処理を実現することができるという効果を奏する。

【0189】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、上記アクセス先情報を、上記商品に形成するステップをさらに有している構成である。

【0190】

また、本発明に係るラベル情報提供装置は、以上のように、上記アクセス先情報は、上記商品に形成されている構成である。

【0191】

それゆえ、商品を購入した者だけしか、上記アクセス先情報を知ることができないので、商品の購入に付随するラベル情報のダウンロードサービスを利用者に提供することができるという効果を奏する。

【0192】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、上記アクセス先情報は、上記商品の商品情報を記載したラベルと同一のラベルに形成されている構成である。

【0193】

それゆえ、アクセス先情報と商品情報とが同一ラベルに記載されているので、このラベルを用いれば、これらの情報を一度に商品に付することができるという効果を奏する。

【0194】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、上記アクセス先情報は、上記商品の商品情報を記載したラベルとは別のラベルに形成されている構成である。

【0195】

それゆえ、アクセス先情報と商品情報とが別々のラベルで明確に区別されるため、一方のラベルに付されたアクセス先情報が、他方のラベルに付された商品情報の一部として見なされるようなことがないという効果を奏する。

【0196】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、上記アクセス先情報は、URLである構成である。

【0197】

それゆえ、利用者は、利用者端末に上記URLを入力するだけで、ラベル情報のダウンロードのリクエストを直ちに行うことが可能となるという効果を奏する。

【0198】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、上記アクセス先情報は、上記URLをバーコード化した情報である構成である。

【0199】

それゆえ、バーコード化したURL情報を例えば専用の読み取り機で読み取ることで、URLを利用者端末に入力することが可能となるので、キーボード等によりURL情報を利用者端末に入力する場合に比べて、入力の際の手間や労力を削減することができるという効果を奏する。

【0200】

本発明に係るラベル情報提供方法は、以上のように、上記ラベル情報は、電子データである構成である。

【0201】

それゆえ、ラベル情報を用いてのラベルの復元、複製等が容易であり、また、上記ラベル情報を媒体に保存することもできる。したがって、たとえラベルの復元に失敗したとしても、上記ラベル情報を用いてのやり直しを行うことが可能となるという効果を奏する。

【0202】

本発明に係るラベル情報提供方法に用いられる商品は、以上のように、上述したラベル情報提供方法に用いられる商品であって、上記アクセス先情報がパッケージに形成されている商品である構成である。

【0203】

それゆえ、商品の購入者にのみアクセス先情報を提供して、上記購入者に対してのみ、商品購入の付加サービスとして本発明のラベル情報提供方法によるラベ

ル提供サービスを実行することができ、また、商品の販売促進を図ることもできるという効果を奏する。

【 0 2 0 4 】

本発明に係るラベル情報提供装置は、以上のように、上記記憶手段は、さらに、上記商品を利用者に提供する商品提供者情報を記憶しており、上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された商品提供者情報が、上記記憶手段に記憶されている情報の中に存在するか否かを判断し、存在すると判断した場合にのみ、検索結果に対応するラベル情報を上記利用者端末に送出する構成である。

【 0 2 0 5 】

それゆえ、ラベル情報の提供を、所定の商品提供者から実際に商品の提供を受けた利用者限定して行うことができ、商品を購入した利用者に対するサービスを確立することができる。また、ラベル情報を取得するためには、利用者は商品を商品提供者から購入することが必要となるので、商品提供者側からすれば、商品の販売促進にもつながり、本サービスを利用する利用者層を広げていくことが可能となるという効果を併せて奏する。

【 0 2 0 6 】

本発明に係るラベル情報提供装置は、以上のように、上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された利用者情報を、上記記憶手段に記憶させる構成である。

【 0 2 0 7 】

それゆえ、記憶手段に記憶された利用者情報をもとにして、例えば、新商品に関する情報や、その他、利用者にとって有益となる情報を利用者に提供することが可能となるという効果を奏する。

【 0 2 0 8 】

本発明に係るラベル情報提供装置は、以上のように、上記制御手段は、上記利用者端末にて入力された利用者情報と商品提供者情報とを関連付けて、上記記憶手段に記憶させる構成である。

【 0 2 0 9 】

それゆえ、所定の商品提供者に対する利用者の利用状況、つまり、商品提供者ごとの商品の販売動向を把握することができ、その販売動向を商品の流通管理や

在庫管理に役立てることができるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係るラベル情報提供方法を実現するラベル情報提供システムでの動作の流れを示すフローチャートである。

【図 2】

上記ラベル情報提供システムの概略の構成を示す説明図である。

【図 3】

(a) は、ラベル情報とアクセス先情報とを記したラベルが貼付されたボトルの外観を示す正面図である。(b) は、上記ラベルの内容を拡大して示す説明図である。

【図 4】

上記ラベル情報提供システムにおける消費者側の端末およびサービス提供者側の端末の概略の構成を示すブロック図である。

【図 5】

(a) は、サービス提供者側の端末の記憶部に記憶されるラベル情報の各ファイルを示す説明図である。(b) は、同図 (a) のファイルを用いて、ラベル情報をプリント出力した結果を模式的に示す説明図である。

【図 6】

消費者がサービス提供者側の端末にアクセスした場合に、消費者側の端末に表示される初期画面の内容を示す説明図である。

【図 7】

(a) は、ラベル情報とアクセス先情報とが別々に記されたラベルが貼付されたボトルの外観を示す正面図である。(b) は、上記各ラベルの内容を拡大して示す説明図である。

【図 8】

(a) は、ラベル情報を記したラベルをボトル正面に貼付し、アクセス先情報を記したラベルをボトル背面に貼付した場合のボトルの外観を示す背面図である。(b) は、アクセス先情報を記したラベルの内容を拡大して示す説明図である。

【図 9】

上記アクセス先情報をバーコード化して記したラベルを拡大して示す説明図である。

【図 1 0】

消費者がサービス提供者側の端末にアクセスした場合に、消費者側の端末に表示される画面であって、消費者に商品情報を入力させることを促す表示画面の内容を示す説明図である。

【図 1 1】

消費者がサービス提供者側の端末にアクセスした場合に、消費者側の端末に表示される画面であって、消費者に商品情報および利用店名を入力させることを促す表示画面の内容を示す説明図である。

【図 1 2】

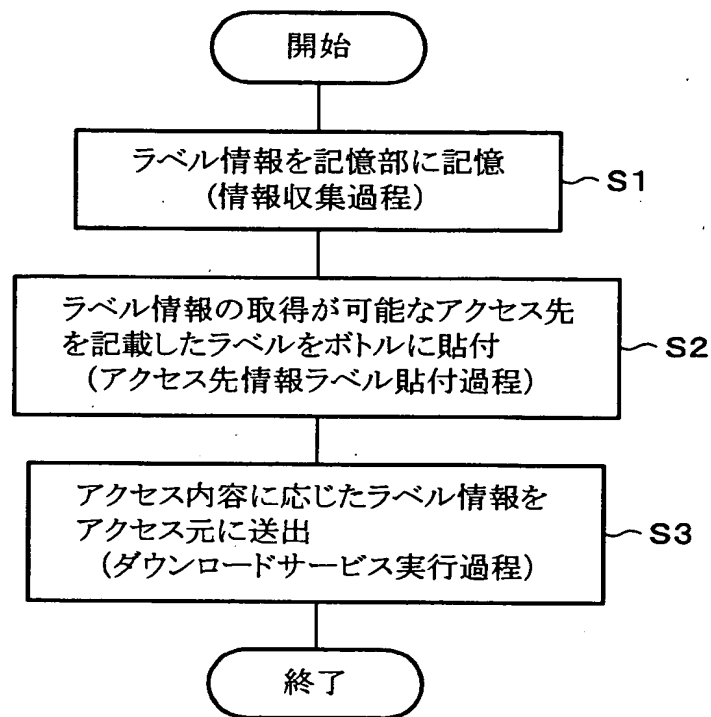
消費者がサービス提供者側の端末にアクセスした場合に、消費者側の端末に表示される画面であって、消費者に商品情報、利用店名および消費者情報を入力させることを促す表示画面の内容を示す説明図である。

【符号の説明】

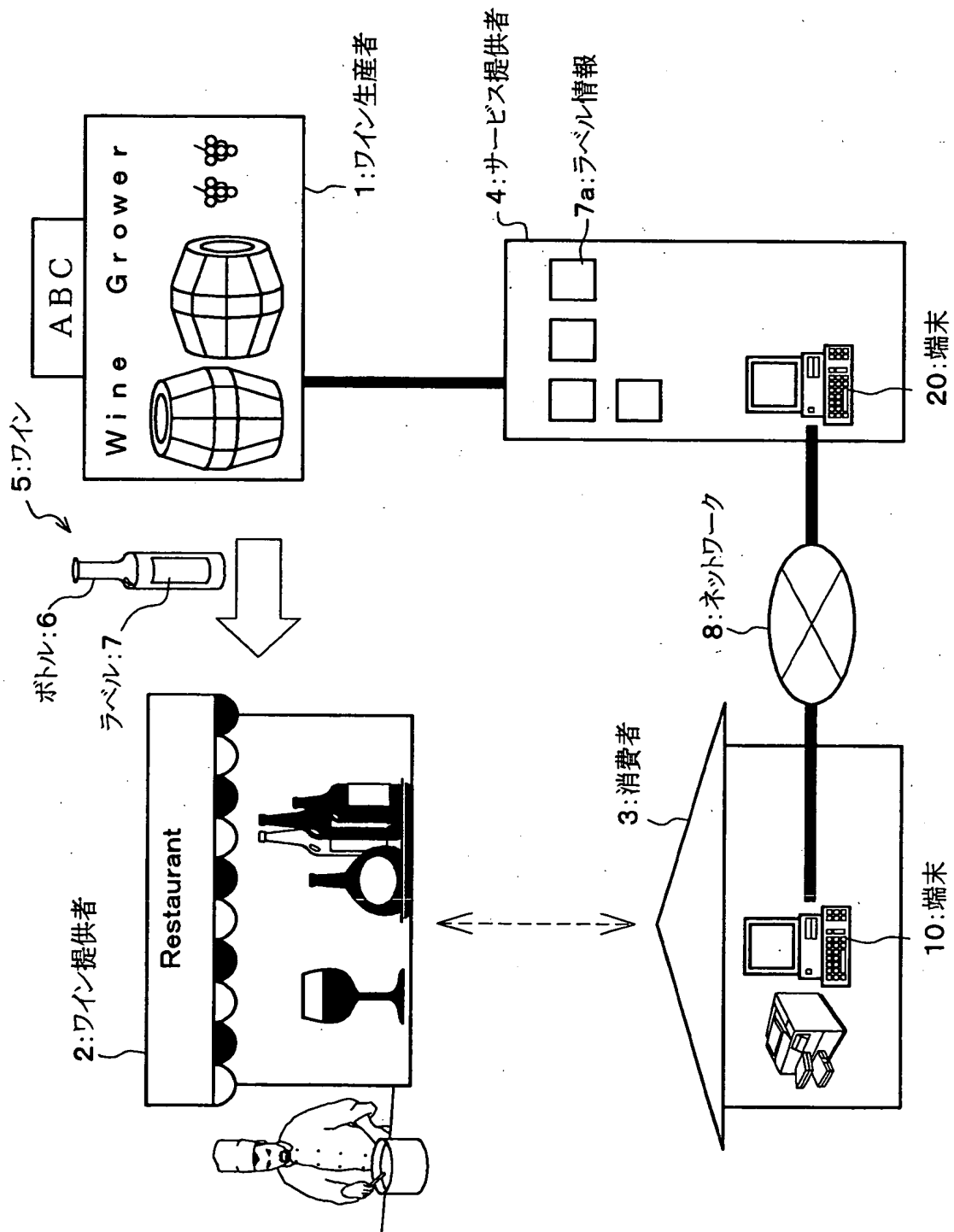
- 2 ワイン提供者（商品提供者）
- 3 消費者（利用者）
- 5 ワイン（商品）
- 7 ラベル
- 7 a ラベル情報
- 7 b アクセス先情報
- 1 0 端末（利用者端末）
- 2 0 端末（ラベル情報提供装置）
- 2 3 演算処理部（制御手段）
- 2 4 記憶部（記憶手段）

【書類名】 図面

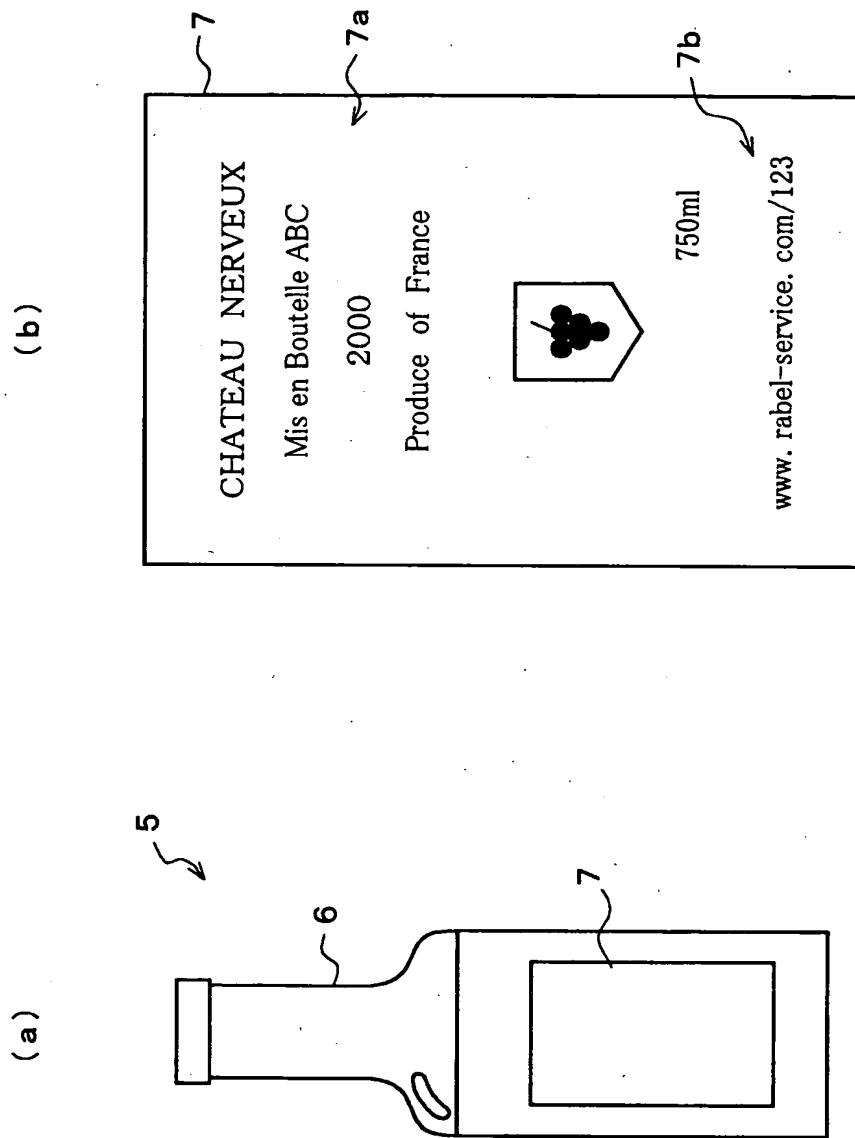
【図 1】



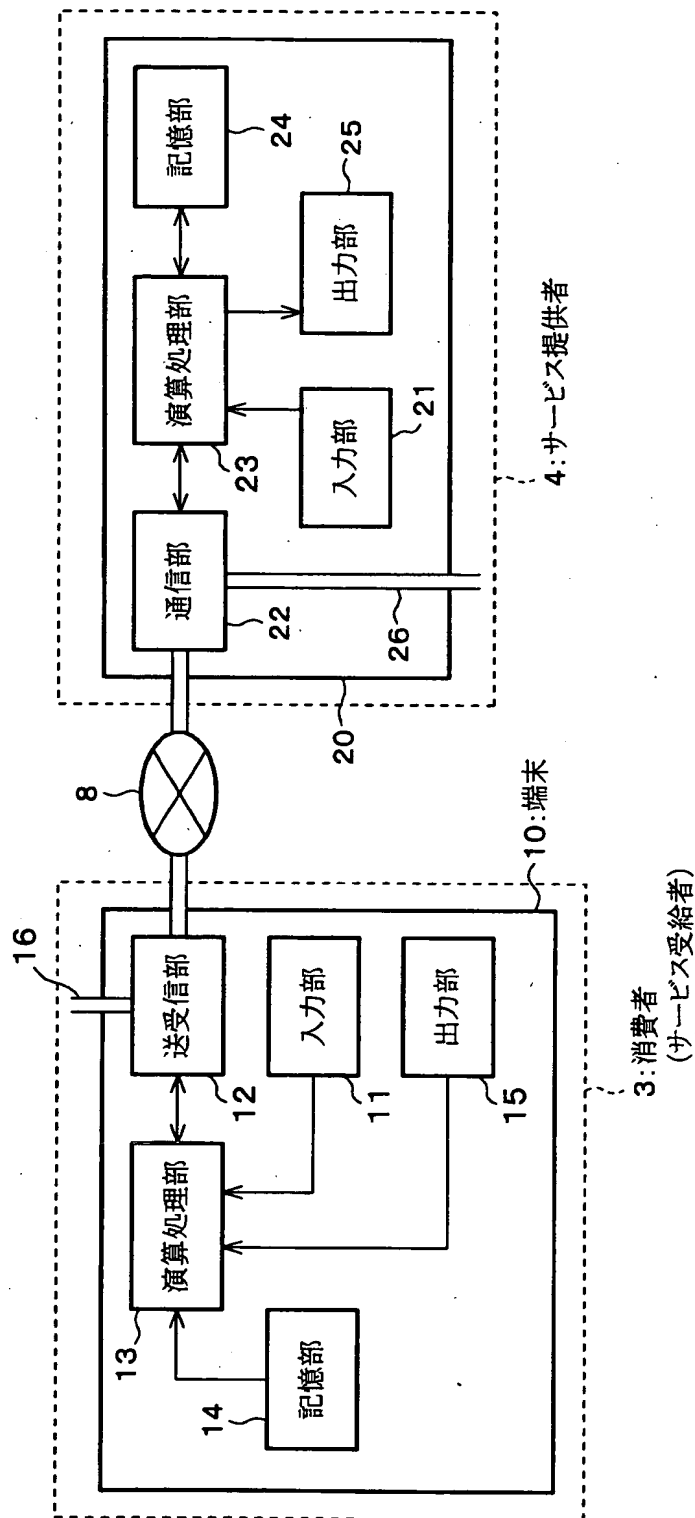
【図 2】



【図 3】

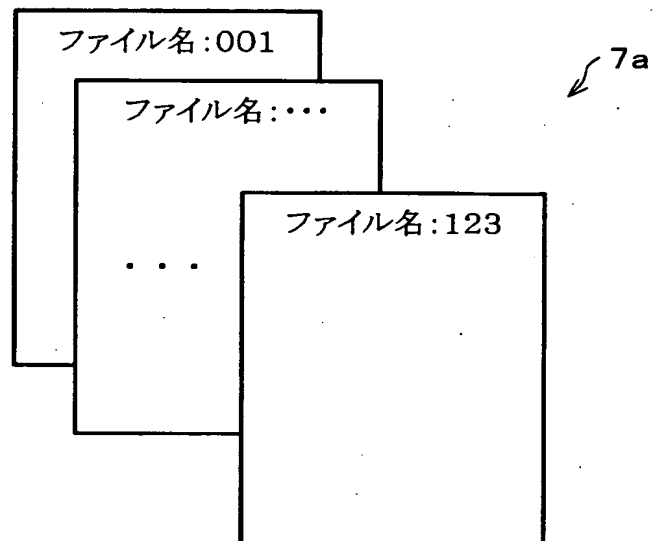


【図4】

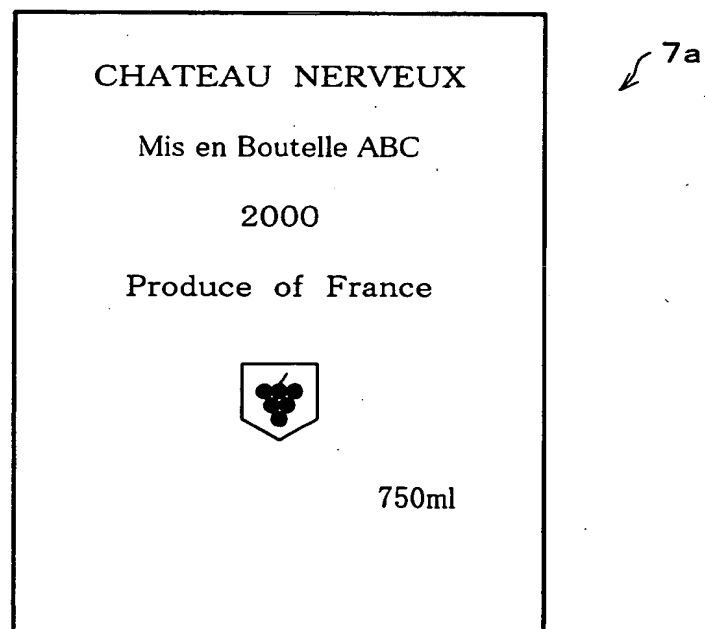


【図5】

(a)



(b)

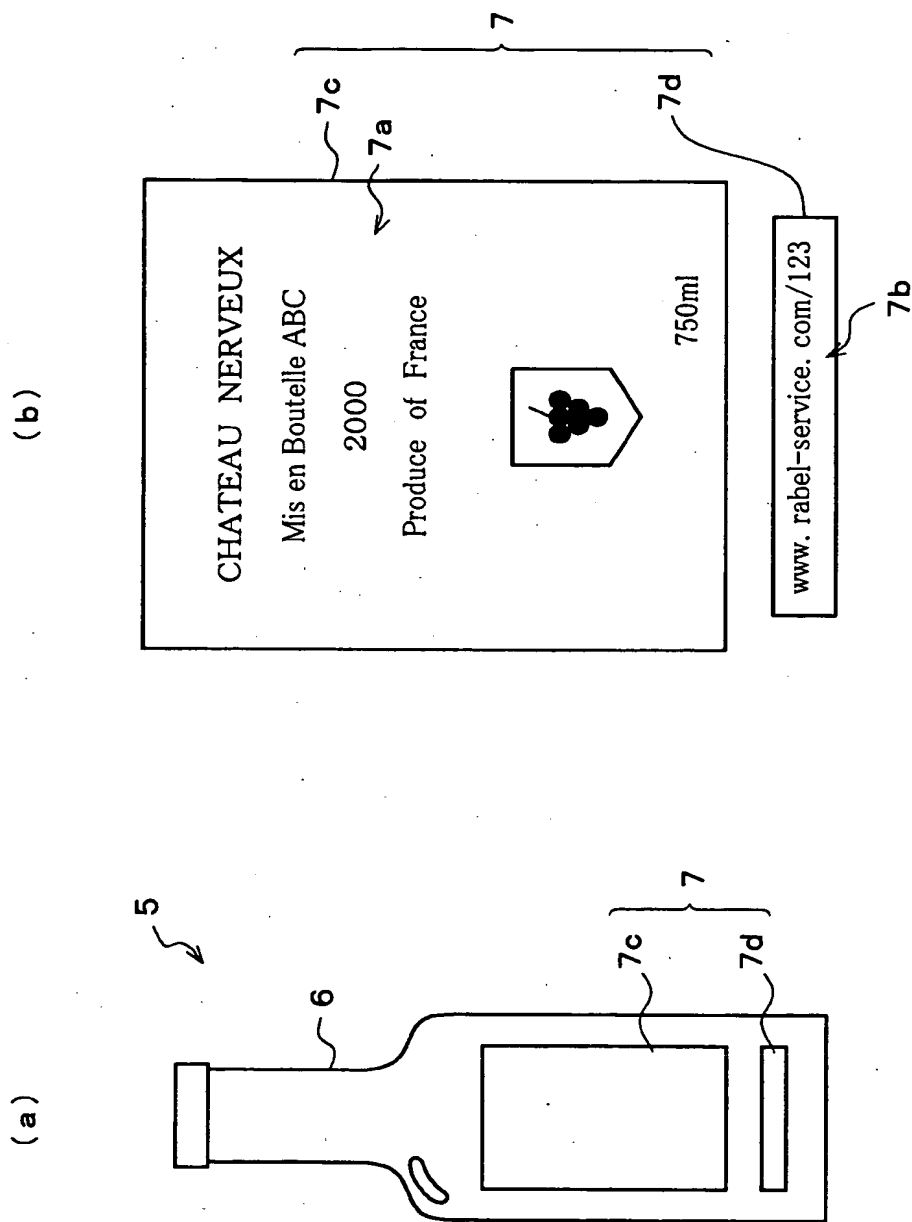


【図6】

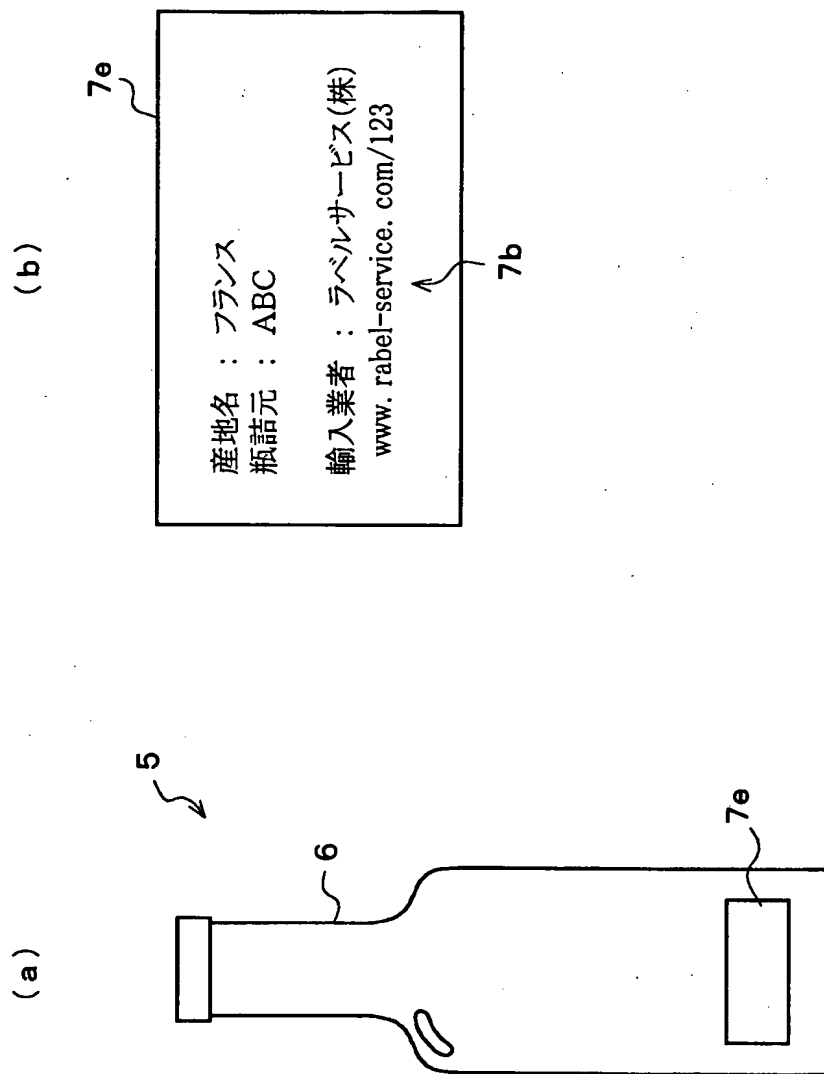
ブラウザ	
URL	http://www.rabel-service.com/123.htm
<p>下記のボタンをクリックすると、 ワイン： 名称：CHATEAU NERVEUX 収穫年：2000年 産地：フランス ...</p> <p>のラベル情報をダウンロードすることができます。</p> <p style="text-align: center;">ダウンロード</p> <p style="text-align: center;">123(jpg) 3000k</p>	

31

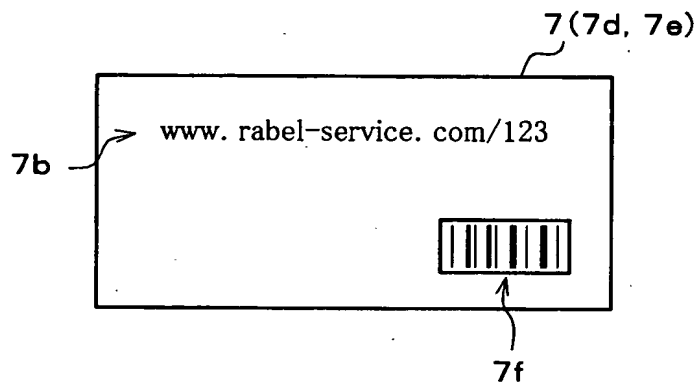
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

ブラウザ

URL

下記の項目を記入して下さい。

名称:

収穫年:

産地:

...

【図 11】

ブラウザ	
URL	<input type="text" value="http://www.rabel-service.com/"/>
下記の項目を記入して下さい。	
名称：	<input type="text"/>
収穫年：	<input type="text"/>
産地：	<input type="text"/>
...	
利用店名：	<input type="text"/>
...	
<div>検索</div>	

【図 12】

ブラウザ	
URL	<input type="text" value="http://www. rabel-service. com/"/>
下記の項目を記入して下さい。	
名称：	<input type="text"/>
収穫年：	<input type="text"/>
産地：	<input type="text"/>
...	
利用店名：	<input type="text"/>
...	
利用者名：	<input type="text"/>
住所：	<input type="text"/>
連絡先：	<input type="text"/>
<input type="button" value="検索"/>	

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ワインを購入した消費者が、該ワインのラベルを価値ある情報を有するものとして簡単な方法により取得する。

【解決手段】 まず、ボトルに貼付されたラベルのラベル情報をサービス提供者が収集し、収集したラベル情報をサービス提供者側の端末の記憶部に記憶させる（S1）。一方、消費者がラベル情報の取得が可能なアクセス先を記載したラベルを、上記ラベル情報に対応するボトルに貼付する（S2）。消費者がワインを購入すると、ワインボトルに貼付されたラベルのアクセス先情報を基にしてサービス提供者の端末にアクセスすることが可能となる。上記アクセスがあった場合には、サービス提供者側の端末は、このアクセス内容に応じたラベル情報を、消費者側の端末に送出する（S3）。これにより、消費者は、サービス提供者から所望のラベル情報を電子データとして取得することができる。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日 1990年 8月29日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

氏 名 シャープ株式会社



Creation date: 11-04-2004
Indexing Officer: DBAGUYO - DAVE BAGUYO
Team: OIPEBackFileIndexing
Dossier: 10026808

Legal Date: 01-30-2002

No.	Doccode	Number of pages
1	CTMS	1

Total number of pages: 1

Remarks:

Order of re-scan issued on